



大阪国際空港周辺緑地の利活用

～飛行機に見える魅力的な都市公園～

原田緑地は、大阪国際空港の緩衝緑地（騒音等の緩和を図ることを目的として造成される緑地）Ⅱ期事業の計画地で、現在は「緑と食品のリサイクルプラザ」や「緑化樹木見本園」、「記念樹の森」など、主に緑地保全及び緑化推進行政を図る施設が設置されています。

同地に隣接する千里川土手は、飛行機を真下から間近で鑑賞できる環境であることなどから、世界最大級の旅行プラットフォーム「トリップアドバイザー」において、最高のサービスを継続的に提供し、過去1年間にわたり高評価の口コミを継続的に獲得した施設に与えられる「エクセレンス認証」を受けました。

こうしたことなどから、大阪国際空港に親しみを持つことや本市の観光名所の創出等を目的に、原田緑地を飛行機に見える魅力的な都市公園として、千里川土手と一体的な整備を進めています。

■対象エリア

- ・場 所：原田中2丁目地内（大阪国際空港の南東）
- ・敷地面積：約6ha

■愛称

豊中つばさ公園「ma-zika」（公募により選定）

■現在の整備状況

緑と食品のリサイクルプラザ

食品リサイクル法の理念や趣旨に基づき、学校給食の調理くずや給食の食べ残し等の生ごみに街路樹等の剪定枝を混ぜて堆肥「とよっぴー」（土壌改良材）を製造する施設。

体験農場

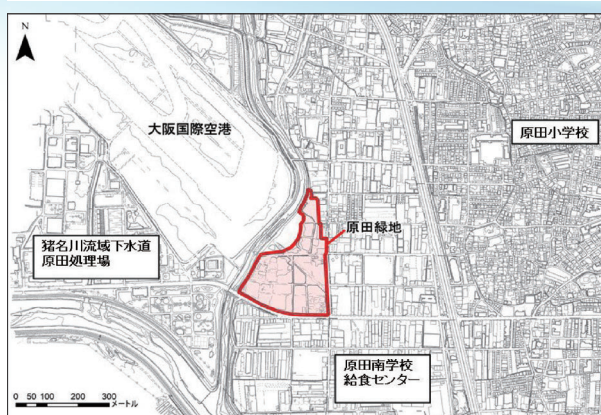
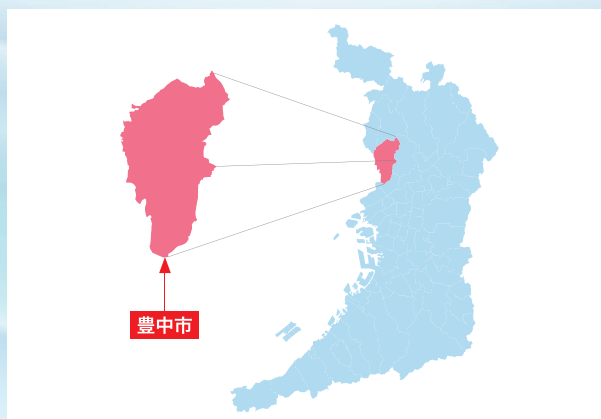
緑と食品のリサイクルプラザに併設する農園で、親子や児童等の野菜の植付・収穫等を行う農体験学習の場として活用。

緑化樹木見本園

自宅などに植える樹木の見本を展示している施設。

記念樹の森

市民の出生や結婚、銀婚、金婚の記念として、市の木であるキンモクセイ等を植樹した施設。



■利活用イメージ図



※イラストは令和6年7月時点のイメージです

主な施設

展望・芝生広場、屋根付広場、マルシェ・イベント広場、ドッグラン、飲食施設、バーベキュー施設、駐車場・駐輪場、管理事務所、トイレ、空港の歴史案内、航空機情報案内、自動販売機など。



■今後のスケジュール

令和7（2025）年度 ： 一部開園

令和8（2026）年度 ： 全面開園

■民間企業や市民に期待することなど

本事業は、HARADA 緑と風のエアガーデングループ（代表企業：株式会社KUL）が進めています。

民間事業者の皆さまには、雑誌等への掲載のほか、大阪国際空港など近隣施設と原田緑地をつなぐシャトルバスの運行など、本公園の認知度や利便性を向上させる役割を期待しています。

また、本公園を取り入れた旅行ツアーの開発のほか、本公園でのイベントの開催やマルシェ広場でのキッチンカーの出店など、本公園の賑わいを創出する役割を期待しています。

本事業は豊中市企業版ふるさと納税の主要プロジェクトの一つとなっており、ご寄付をいただいた民間事業者さまは、公園内のデジタルサイネージに社名を表示することができます（100万円以上のご寄付をいただいた場合は、デジタルサイネージでの表示とは別に、社名を記載した銘板を掲示できます）。

1万円以上のご寄附で、全面開園のオープニングイベントに入場できるクラウドファンディングについても、令和9年2月28日まで募集しています。